【150】

氏　名(本　籍)	森　本　健　弘(山口県)
学位の種類	博　　士(理　　学)
学位記番号	博　乙　第　1,009　号
学位授与年月日	平成6年7月31日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
審査研究科	地球科学研究科
学位論文題目	A Geographical Study on Cultivation Abandonment *in Intensive Agricultural Regions of Kanto Plain* (関東地方平野部の集約的農業地域における不耕作農地の形成に関する地理学的研究)

主　査	筑波大学教授	理学博士	高　橋　伸　夫
副　査	筑波大学教授	理学博士	奥　野　隆　史
副　査	筑波大学教授	理学博士	斎　藤　　功
副　査	筑波大学助教授	理学博士	田　林　　明
副　査	筑波大学講師	理学博士	手　塚　　章

論　文　の　要　旨

本論文は，関東地方平野部の集約的農業地域における不耕作農地の形成についてその過程と要因を解明し，要因の地域間比較によって，不耕作農地の形成の地域的な共通点と相違点とを明らかにしようとしたものである。不耕作農地の形成要因の解明は農業地域の地理学的な把握の一つの方法として有効であると考えられる。不耕作農地が形成される要因は，個々の農業経営や農業地域における耕作面積を縮小させるものであり，そうした要因は農業経営や農業地域の地域的特質と密接に関連するからである。不耕作農地の形成とは，農家の意志によって農地の耕作が1年以上休止ないし放棄されることであり，その農地を不耕作農地と呼称する。

上記の課題を達成するため，本研究では不耕作農地が高い割合で存在し，かつ集約的な農業経営が行われている地域を対象として，不耕作農地の形成の様相と要因を，農家の農業労働力，就業構造，および経営部門との関連において分析した。これらの事柄を具体的かつ定量的に把握するために，典型的な農業集落を研究対象地域として，土地利用調査と農家調査を行った。研究対象地域は，関東地方平野部外縁部の集約的農業地域に属する茨城県波崎町，および関東地方の大都市近郊の集約的農業地域に属する千葉県市川市に設定された。集約的農業経営と不耕作農地の形成との関係を明らかにするために，代表的な複数の農家について，それらの農業経営を，所要労働時間と収益性の側面に着目して定量的に分析した。判明した不耕作農地の形成要因を地域間で比較して，集約的農業地域におけ

る不耕作農地の形成要因の共通性と地域的差異を明らかにした。さらに，不耕作農地の形成からみた関東地方平野部の地域差を考察した。本研究で得られた結果は以下のようにまとめられる。

二つの研究対象地域に共通した不耕作農地の形成要因は，第1に，農業経営の集約的園芸部門への専門化に伴う，労働力の相対的不足であった。両地域では，比較的多数の農家が土地生産性の増大による自立的な農業経営の実現を図り，この意思決定と行為が不耕作農地を生起させてきた。第2には，農外就業等による農業労働力の減少であった。第3には，農地利用の流動化の不足であった。

不耕作農地の形成要因における地域的な差異は第1に，農外就業を不耕作農地の形成要因とする農家数の多寡，第2には圃場環境の悪化の有無，第3には農地利用の流動化不足の原因にみられる相違であった。なお大都市近郊では，地域外の農家による代替農地の取得が不耕作農地の形成に関与していた。これらの地域的差異は，主として都市化の程度の地域的な差異に対応し，また，集約的農業の展開過程にみられる地域的特質の相違や，農業振興政策における当該地域の位置づけの相違と関連していた。都市化の程度の地域的な差異への着目によって，関東地方平野部の不耕作農地の分布とその形成要因の地域差を，東京都心を中心とする同心円的パターンで把握できる可能性が示された。

本研究は，集約的農業地域における不耕作農地が，自立的な経営を志向した農業経営の集約化によって生起する事実を明らかにした。こうした不耕作農地の形成は，農業経営の発展を図る農家の意思決定が，それと表裏一体の粗放化現象として農業的土地利用上に生起させたものである。換言すれば，不耕作農地は，わが国農業の近代化の特質の一つである，農業経営の施設型部門への専門化が農業的土地利用に引き起こした矛盾の現われである。このように本研究は，集約的農業地域における不耕作農地の形成が，従来の多くの研究で対象とされた，農業ないし農村の衰退に起因する不耕作農地の形成とは異なる意味を有することを明らかにした。

審　査　の　要　旨

不耕作農地の形成に関するこれまでの研究は，多くの場合，農業や農村の衰退に起因する不耕作農地の形成を取り扱ってきた。本研究，これまで地理学においてほとんど扱われてこなかった，集約的農業地域における不耕作農地の形成に着目した。その結果，集約的農業地域における不耕作農地の形成が，自立的な経営を志向した農家による経営の集約化によって生起したこと，さらに，多数の農家による農業経営の発展・拡大を目的とした行為が農業的土地利用秩序にもたらした粗放化現象という地域的意味を有することを明らかにした。本研究の成果は，今後，不耕作農地の研究のみならず，広く農業地理学分野における研究に大きく貢献するものと考えられる。

よって，著者は博士（理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。